

「まいかつ体験」終了後アンケート結果

舞鶴市が中学1，2年生を対象に実施した「まいかつ体験」について、生徒、保護者、指導者、教員を対象に行ったアンケート結果の概要は以下のとおりです。

1 生徒及び保護者の参加動向と評価

(1) 参加状況と活動内容

アンケートに回答した生徒のうち、47.6%が「まいかつ体験」に参加しました。参加した主な種目は以下の通りです。

- スポーツ：

ソフトテニス（96名）、バレーボール（88名）、バスケットボール（69名）、陸上競技（39名）などが上位を占めました。

- 文化芸術：

城南中吹奏楽（31名）、ダンス（19名）、デジタルイラスト（10名）などが挙げられました。

(2) 満足度とその理由

参加者の満足度は高く、参加した生徒の51.8%が「大変良かった」、42.8%が「まあまあ良かった」と回答しています。

評価区分	理由（上位項目）
肯定的意見	楽しく活動できた（277件）、自分のやりたい活動ができた（234件）、技術が身についた（221件）、仲間との交流ができた（222件）
否定的意見	指導の仕方が合わなかった、やりたい活動ではなかった、技術が身につかなかった

(3) 継続意向

参加した生徒の73.7%が「今回と同じ、あるいは他の『まいかつ』にも参加したい」と前向きな姿勢を示しています。一方で、不参加だった生徒の理由は「他の活動（学校の部活動等）に参加していた（227名）」や「休日は休みたかった（132名）」が上位でした。

2 運営体制と実務上の課題

(1) 移動手段と保護者の負担

活動場所への移動は「保護者による自家用車での送迎（223名）」が最多であり、次いで「自転車（184名）」となっています。保護者アンケートでは、送迎の負担を不安要素として挙げる声が多く、バスの運行や近隣施設での活動を望む意見がありました。

(2) 費用対効果と負担上限

保護者が負担できる月額費用については、以下のとおり分布していました。

- 1,000円まで：28.6%
- 2,000円まで：25.1%
- 3,000円まで：27.2%

※ 約8割の保護者が3,000円以下を希望しており、これを超える費用設定は参加の障壁となる可能性があります。

(3) 連絡体制

指導者と保護者間の連絡は、LINE（オープンチャット含む）が主流（293件中263件）であり、94.1%の保護者が「スムーズに行えた」と評価しています。

3 指導者及び教員の視点と課題

(1) 指導者の構成と意識

指導者は回答母数が少ないものの、回答者の34.8%が40代であり、職業は自営業者（39.1%）や会社員（34.8%）となりました。

- 運営体制への要望：

47.8%の指導者が「運営・経営・事務を専門的に管理する組織が必要」と考えており、行政や第三者機関の関与を求めています。

- 指導上の困難：

参加者の「技術・意欲レベルの差」について、指導者の78.3%（差が大きかった+やや影響があった）が課題を感じていました。

(2) 教員の負担軽減と懸念事項

休日部活動の停止により、43名の教員が「負担がとて減った」と回答しています。しかし、以下の懸念が示されました。

- 学校備品の管理：

今回、「体験」だったこともあり、必要な備品等は学校から借りられる体制で進めました。その結果、学校備品の現状復帰が不徹底、備品の紛失・破損時の責任が曖昧といった課題が出ています。

- 大会参加：

中体連など公式戦への出場資格や登録方法への周知不足が、不安材料となっています。

4 今後の要望と拡充すべき活動

(1) 新設・拡充が望まれる種目

アンケートでは、現在実施されていない、あるいは拡充が必要な種目として以下が挙げられました。

- スポーツ：

サッカー（要望最多）、バドミントン、ドッジボール、硬式野球、空手、ボウリング

- 文化芸術：

吹奏楽（今回城南中だけだったため、現在吹奏楽部がある白糸中、城北中から特に強い要望）、軽音楽、料理、プログラミング、動画編集。

(2) 制度改善への具体的要望（自由記述まとめ）

カテゴリー	主な内容
情報発信	制度の全体像、スケジュール、大会参加ルールの早期明確化
環境整備	学校施設の優先確保、小学校体育館の活用、テニスコート等の整備

事務効率化	集金システムの一括管理、指導者報酬の安定確保、Web会議の導入
教育的配慮	指導者の質の向上、経済的困難世帯への補助、ニーズに応じたまいかつの選択肢の提供、地域格差の解消

5 まとめ

「まいかつ体験」への参加率は回答した生徒の約47.6%であり、参加者の満足度は生徒・保護者ともに極めて高いものでした。（生徒の94.6%、保護者の92%が肯定的評価）その主な要因として「専門的な指導による技術向上」や「他校生徒との交流」が挙げられます。一方、本格実施に向けて、以下の課題も挙げられたことから、引き続き課題の検討を進める必要があります。

運営面：

活動場所の確保、学校備品の利用に関するルールづくり、送迎の負担

費用面：

保護者の許容月額額は1,000円～3,000円に集中しており、受益者負担と運営継続性のバランス

指導・体制面：

参加者の競技レベルの格差、指導者の質への懸念、中体連等への大会出場ルールの明確化

※個別のアンケート結果の詳細は別添をご参照ください。